

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年3月1日

事業所名 玉野市児童発達支援センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	8	<ul style="list-style-type: none"> ・個別エリアやグループ活動で部屋に密集しないようにスケジューリングしている。 ・特性に合わせた構造化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の狭いため、両クラスでホールや中庭、砂場の共有スペースを譲り合って使用しながら、密集しないように心がけている。 ・毎日使用したい気持ちはあるが、毎日使用する必要があるかのアセスメントも行っていきたい。
	②	職員の配置数は適切である	9	4	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容の加減をしたり、パート職員の勤務を調整したりしながら配置している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人数配置はクリアしているが、出勤状況にばらつきがあるため、出勤の管理を行う必要がある。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10	3	<ul style="list-style-type: none"> ・特性に合わせた設備の少なさは、専門家の指導のもと、構造化に取り組んで環境設定をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児向けの作りでないため、食事や排せつ指導のしにくさ、余分な職員配置が必要な状況になっているため、追々は専門の施設が必要と考える。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10	3	<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化しているものを使用しており、不揃い感がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ありあわせのもので対応している部分もあり、不揃い感や棚や収納が不足しているため、今後はできる部分から統一感、見た目の印象を大切に設置していきたい。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8	5	<ul style="list-style-type: none"> ・パート職員が不定期でクラスに配置されるため、口頭でのやりとりが多く、成長やプランの変化を共有しにくさがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パート職員の勤務時間内で参加が難しい状況がある。今後は、一緒に対応できる仕組みを考えたい。（クラス担任制等）
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年アンケートを実施し、次年度には改善や工夫できるように話し合いを設けている。 	

	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	13	0	・ガイドラインアンケートを毎年実施し、HP で公開している。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	12	1	・コンサルで事業所の取り組みや療育を評価してもらい、PDCA サイクルをもとに再構造化や支援を行うようになっている。	・パート職員の参加機会がないため、次年度は日程調整を工夫しながら参加できる日を設けたい。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	0	・コンサル、事業所内研修、法人内研修、外部研修を必要な職員に参加してもらっている。	・実践的な研修を望む職員もいるため、専門性を高める研修を検討していきたい。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	13	0	・目標要望書、相談支援専門員による支援計画等をもとにアセスメントを行い、カンファレンスを行っている。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	13	0	・医療機関や児童相談所によるフォーマルな発達検査、事業所内での遠城寺や太田ステージのインフォーマルな発達検査を活用し、アセスメントシートを活用している。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	13	0	・年長児は、地域移行児もいるため、プランに地域移行に向けてのプランも入れるようになっている。	・コロナ禍のため、段階を踏む過程で実行できないことがあったので、次年度以降も目標には挙げていくようにし、職員も地域を意識した支援を行えるようにしていきたい。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	13	0	・プランに沿った支援を行っている。	・プランに沿った支援を行っているが、活動の幅が少ないため、職員のスキルアップや取り組みに必要なツールの購入や作成の検討を行いたい。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	12	1	・相談支援専門員が立てた支援計画をもとにクラス担任と児発管で立案している。	・パート職員が立案に加わる機会がないため、支援の際に戸惑うことがある。支援するポイント等を書き出した

					ものを提示する等の対策を行うことで、任せられる活動を増やす。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11	2	・戸外に出る機会も設けるなどして工夫している。	・センターでの療育しか知らない職員が多く、地域や他事業所を見学する機会を設け、遊びや取り組みが固定化しないよう実践できる引き出しを増やせるようにする。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	13	0	・部屋の狭さや使い勝手の悪さを逆手に取り、個別と小集団活動を行い、長時間同じことで固定化しないようにしている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	13	0	・朝礼や、クラスごとの打ち合わせで一日の流れを共有して受け入れている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	13	0	・毎日、記録をもとに行っている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	0	・毎日療育終了後に記録し、評価を行っている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	13	0	・毎日、相談支援専門員と顔を合わせられるメリットを活かし、定期的に行っている。	
関係機関	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	0	・担当者会議には、管理者、児発管、担任が参加し、相談支援専門員と更新のタイミングで行っている。	
や保護者との連携	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	12	1	・保健師、児童相談所、福祉政策課、学校教育課等と調整を行い、発達支援や虐待ケース等の連携を図っている。	・『分からない』という答えがあり、項目の意味理解が難しい職員がいたため、具体的な機関を伝える場が必要と感じたため、事業所内での勉強会を考えたい。
関係機関	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	7	・今年度は対象児なし。 ・『はい』と返答した職員は、昨年度までの状況を答えている。	・『いいえ(分からない)』と返答した職員は、昨年度までの様子を知らない職員や、どう連携しているかまでは知らないようであったので、次

関 や 保 護 者 と の 連 携					年度以降に対象児がいた場合には全職員が共有できる場を設けるようにする。	
	②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6	7	・今年度は対象児なし。 ・『はい』と返答した職員は、昨年度までの状況を答えている。	・『いいえ(分からない)』と返答した職員は、昨年度までの様子を知らない職員や、どう連携しているかまでは知らないようであったので、次年度以降に対象児がいた場合には全職員が共有できる場を設けるようにする。
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12	1	・年度途中で園から事業所へ移行する機会があり、園や利用していた事業所への見学を行い、実態の把握を行うようにしている。	・どういう形で引き継がれているか知らない職員がいるため、引継ぎの手順や内容等も職員間で共有していく。また、地域の園訪問を経験したことがない職員も多いので、児発管と地域に出る経験もしていけるようにしていく。
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	13	0	・移行先の小学校、支援学級、通級指導教室、学童クラブ等の職員が見学しに来所し、取り組みや該当児の様子観察を行っている。また、年度末には引継ぎを行い、就学移行支援が適宜行われている。	・上記同様、就学前後の移行期に就学児や卒園児の支援訪問を職員とともに行っていく。
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	6	・ケースによっては他事業所や関係機関と連携している。	・特定の職員が対応しているため、全体への共有ができていない。せっかく連携していることも知らない職員がいるので、仕組みや組織図等で知らせる機会を作っていくようにしたい。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	9	・隣の幼稚園の園庭を借りて遊ばせてもらう機会はある。	・計画には入れていたが、コロナ禍のため、子どもたちとはほぼ交流機会がない。次年度も計画に挙げ、交流できる機会が作れるようにしておく。

	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子 ども・子育て会議等へ積極的に参加している	11	2	・年4回、子ども部会に管理 者、児発管が参加している。	・総合支援協議会や子ども 部会がどういう役割や会議 を行っているか職員に周知 できていないので、組織図 等を活用して説明し、地域 の資源や役割を知る機会を 増やし、地域支援に活か す。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解 を持っている	13	0	・毎日通園の利点を活かし、 毎日保護者と話ができる。ま た、些細な変化にも気付きや すい。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対して家族支援プログラム（ペアレン ト・トレーニング等）の支援を行っている	12	1	・参観日と勉強会を合わせて 行ったり、保護者会主催でサ ポートブック勉強会を開催し たりしている。	・提案した支援方法の活用 状況や進捗を毎日の話しの 中で確認がしやすい。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説 明を行っている	13	0	・契約説明会で説明し、参加 が難しい場合や再度説明が必 要な場合には個別対応を行っ ている。	
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援 の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、 これに基づき作成された「児童発達支援計 画」を示しながら支援内容の説明を行い、保 護者から児童発達支援計画の同意を得てい る	13	0	・プランの根拠と内容、取り組 み方、達成することでどんなス キルにつながるのか等具体的 にツールを使って説明し、同意 を得ている。	
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対 する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を 行っている	13	0	・毎日登園のため、保護者か らだけでなく、職員側からも投 げかけたり、支援の進捗を伝え るようにしている。	・
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	13	0	・保護者会で就学、サポートブ ック等の勉強会を企画、開催 を行っている。また、育児や悩 みの相談も保護者間で行う 機会になっている。	
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、 対応の体制を整備するとともに、子どもや保護 者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅 速かつ適切に対応している	13	0	・相談やご意見があった場合 には管理者をはじめ、全職員 で共有し、変更になった内容 は不足が無いようにしている。	

	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13	0	・毎月、通信や献立で活動や行事を知らせている。不定期に、食育のおたよりも配布している。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	13	0	・個人情報は鍵のかかる書庫常時施錠して管理している。写真は契約時に肖像権に関する説明の後、同意書に捺印していただいている。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13	0	・各機関と連携しながら見学対応、視覚提示を行う等の配慮をしている。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	8	・行事や食育等で地域の方や関係機関に参加していただいている。	・コロナ禍で地域の方の参加が難しかったが、今後は参加の方法を検討し、事業所側も地域の行事に参加できる機会を設けたい。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	13	0	・コロナや災害情報の対応マニュアルを配布し、継続して利用できるようにしている。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	13	0	・毎月、避難、救出、消火、非常食の持ち出し、通報訓練、不審者等の様々な想定し、消防や警察と連携して行っている。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	13	0	・入園前の面談、説明会で共有し、必要に応じて主治医と協力したり、嘱託医と連携している。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	13	0	・入園前の面談で職員と共有し、医師からの診断書を提出してもらう。診断書をもとに栄養士と話し、除去食の検討をしている。調理員にも共有され、間違えないようネームプレートで区別している。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13	0	・共有アプリで報告し、朝礼で全体に共有するようにしている。対策等は全職員で考え行	

				っている。	
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13	0	・全体で研修をする機会があり、	
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	13	0	・契約時に説明と同意書の捺印をしてもらい、プラン書にも重ねて記入し説明を繰り返し行うようにしている。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。